巻頭のことば

天　野　耕　二

『立命館食科学研究』第７号は、今年度で退任される南直人先生、新山陽子先生、清水裕子先生に捧げる記念特集号として刊行される。完成年度を送りつつある食マネジメント学部の設立と始動に加え食マネジメント研究科と食マネジメント学会の立ち上げに多大なご貢献をいただいた先生方への贐となれば幸いである。

南直人先生は、大阪国際女子大学（現、大阪国際大学）人間科学部教授、京都橘大学文学部教授を経て 2018 年の食マネジメント学部設立の際に教授として着任された。着任前より、西洋史学分野におけるドイツ近現代史の研究を進められる中で、特に食というテーマにフォーカスされ、ドイツを中心としたヨーロッパ近現代の食の歴史研究を活発に展開されている。ここ数年だけでも、「食の世界史（昭和堂）」、「＜食＞から読み解くドイツ近代史（ミネルヴァ書房）」、「宗教と食（ドメス出版）」など、食の歴史研究に関わる多くの学術図書を執筆されている。

また、味の素食の文化センター「食の文化フォーラム」の企画委員長を務められるなど、歴史学以外の幅広い食文化研究の議論にも早くから参画されている。学問分野の境界を越えた文理総合の学際的研究が食分野にも求められてきた流れの中で、BKC 社系研究機構内の国際食文化研究センターを発展的に改組して食マネジメント学部設立と同時に発足した食総合研究センターの初代センター長として、「食と観光」、「伝統食の革新と地域ブランディング」、「嗜好品としての Washoku」、「味わいの発達と味覚教育」、「Beyond コロナ時代の『食と農』」、「コロナ禍の下での食関連産業の現状と問題解決への試み」、「ポストコロナ時代の食とホスピタリティの行方」など、まさに今日的な食を学際的にとらえるという方向で食マネジメント学会とも連携しながら幾多の先進的な研究会や国際シンポジウムを主催・共催された。

新山陽子先生は、京都大学大学院農学研究科教授を定年退職され京都大学名誉教授となられた 2017 年に立命館大学経済学部教授に着任された後、2018 年の食マネジメント学部設立の際に教授として移籍された。学部設立以前より、新学部設置委員会の専門委員として、日本のどこにも前例が無かったこの新しい学部の骨格形成において類稀なるご慧眼をお貸しいただいている。

日本学術会議会員、日本農業経営学会会長、日本農業経済学会会長、日本リスク研究学会会長などを歴任されながら積み重ねられた、フードシステム構造、食品安全のためのリスクコミュニケーション、食品分野プロフェッション、農業経営管理などに関する膨大な研究業績のみならず、食マネジメント学部設立後も「フードシステムの未来へ」（シリーズ全３巻，昭和堂）、「Essential Elements for Interactive Risk Communication in the Food Related Emergency; A Model and Experiments on the Health Effects of Radioactive Substances（Routledge）」など数多くの学術図書と学術論文（食マネジメント学部教員・学生が共著者として参画している学術論文もあり）を矢継ぎ早に執筆されながら科学研究費基盤研究（A）「食品選択、食事内容構成の意思決定と健康リスクコミュニケーションの要件」を獲得されるなど、学部の教学と研究のロケットスタートにたいへんなエネルギーを投入いただいた。

清水裕子先生は、立命館大学経済学部教授を経て 2018 年の食マネジメント学部設立の際に教授として移籍された。学部設立前より、新しい学部での革新的な英語教育プログラムの設計に取り組まれ、立命館大学での 20 年以上の長きにわたる英語教育の神髄を食マネジメント学部の教学に注ぎ込んでいただいたうえに、いま学部が目指している国際展開における新たな言語教育プログラムに関しても妙々たるアイデアをお寄せいただいている。英語プログラムの設計やリメディアル教育の実践を対象に立命館教職員評価制度にもとづく評価・報奨者として二度にわたり表彰され、BKC 英語部会長および言語教育センター副センター長も歴任されている。

言語教育情報研究科では言語テストの作成原理やテスト理論に関する科目およびリサーチ法や基本統計に関する科目を担当されるとともに、研究指導、学術論文発表、教育測定や言語テストに関する基本文献の翻訳、国内外の学会における研究発表を積極的に進められ、学会・研究機関等での言語テストに関する講演やセミナーなどの講師を務められた。さらには、JLTA（Japan Language Testing Association: 日本言語テスト学会）の副会長・理事として、またELPA（英語運用能力評価協会）のアドバイザリーメンバーとして言語テスト理論および英語教育における公正なテストと評価の普及に大きく貢献された。

南先生、新山先生、清水先生には、食マネジメント学部・研究科、食総合研究センター、食マネジメント学会のさらなる発展に向けて引き続きご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げるとともに、先生方のますますのご健勝とご発展を心から祈念して『立命館食科学研究』第７号記念特集号の巻頭のことばとさせていただきたい。